

# CSRと環境と未来と

温室効果ガス25%削減目標<sup>1)</sup>

9月に政府が表明した温室効果ガス2020年排出量削減目標、1990年比25%は、日本政府が世界へ、はじめてまとったような姿勢を示した画期です。

理念にもとづく政策方針は、まず表明し、それから、あらゆる分野の施策を、そこへ収斂させていく、それが当然の手法です。

新たな、科学と工学技術、産業と流通、雇用の創造、生活の核心、教育の新展開など、広範囲なパラダイム変革がはじまりそうです。

どれもが、「望ましい」理想やビジョンではなく、理念にもとつき「実現すべき」方針です。

## CSRニュースレター・バックナンバー

- Vol.001 CSRはなぜ必要か
- Vol.002 CSR、ことばの意味を知る
- Vol.003 社会(CSR)マネジメント
- Vol.004 会社とはなにか
- Vol.005 会社の存在理由
- Vol.006 ガバナンスとはなにか
- Vol.007 持続可能性とはなにか①
- Vol.008 持続可能性とはなにか②
- Vol.009 予防措置原則とはなにか
- Vol.010 持続可能性マネジメントの導入
- Vol.011 持続可能性イノベーション
- Vol.012 持続可能性リアライゼーション(本稿)

## お問い合わせは

トリプルボトムラインLLP  
〒460-0016  
名古屋市中区橋下町1-17-12  
TEL052-321-8711  
FAX052-321-8712

**TBL**LLP

トリプルボトムラインLLP

Mail: info@tblllp.com

URL: http://tblllp.com

TBLLLP TRIPLE BOTTOM LINE Limited Liability Partnership トリプルボトムライン有限責任事業組合



ディーセンシーのすゝめ

ディーセンシー(deansy)は、時と場所と立場(身分)によって、礼儀正しい、上品な、きちんとした、見苦しくない、情み深いなどの意味があります。ありがたさ、いえること、といったら分かりやすいかもしれません。人の心におにそれる気持があれば、そう正誤をまちがうことがないということです。CSRの時代といわれる今日、このことばを一つこの心をもってほしいものです。きっと、いままで見えなかったものが見えてきます。

Copyright (C) TRIPLE BOTTOM LINE Limited Liability Partnership. All rights reserved.

☆編集室から

CSRニュースレターVol.012をお届けします。次回は2010年2月1日発行予定です。ニュースレター各号は、配布用pdfを用意しています。

ご入用の方は、Mail: info@tblllp.com までご連絡ください。

# 企業の自立

CSRニュースレター2009・11・01

Vol.012

## 特集 持続可能性リアライゼーション

**持続可能性マネジメントはことばにこだわらる**

持続可能性マネジメントはことばの意味だけでなく、ことば同士の類似、同義、反義にもこだわります。それは、持続可能性という視点が、論理性をもとめ、ことばのあいまいさを、よしとしないためです。

日本語が非論理的といわれることがありますが、そんなことはありません。というより、いかなる言語も論理的であって日本語も例外ではありません。

持続可能性マネジメントからみるとことばの問題とは、ことばのもつそれぞれの守備範囲が重なり合うという点です。意味が互いに交錯すると、折りにふれて、理解の取り違いが起り、無用な軋轢を引き起こしかねません。

無意識にそうなることが、小さな問題を大きくします。どんな言語でも同じですが、そうした混乱は、あらかじめ整理しておくことで、避けることができます。

**「考える」と「思う」は違う**

日本語では「思ふ」ということばが、よくつかわれています。ただ無意識につかて、意味をあいまいにしてしまうことがよくあります。ことばの範囲がひろすぎるからです。

思うということばは、「考える」から「感じる」までという、幅のあるレンジをもっています。そしてどちらかというところ「感じる」方へ重みがかかっています。その意味の位置は、そのつどの会話の文脈からきまってきます。

マックスウェーバーは、人の行為は二つの動機をもち、その一つが論理であり、もう一つが感情であるとしています。

## 今月の学び

「本当は何を言っているのか知らずに意見を言うという事」は、私達にとって極めて普通の事である。言葉というものは恐ろしい。恐ろしいと知るには熟考を要する。

考えるヒント〜小林秀雄〜

ここでは、論理とは「考える」ことであり、感情とは「感じる」ことです。互いに対極に位置しているにもかかわらず、先のように、思うとは考えること、また感じるからです。自分でとくに意識しなければ、ふだん区別ができません。

**話し合いは「考え」をいい合うこと**

つまりその意味の位置を特定できません。聞いている相手はもつと区別できません。互いに暗黙のうちに理解したような気がするだけです。

それがテーマをもつて話し合いをするとき、問題になります。テーマについて述べるのは、考え(考えたこと)ですが、そうした「考え」にもかかわらず、「わたしの意見(感想)ですが」とか、「こう思うのですが」とかいつていると、論理の輪郭が薄くなつてきます。

そこに、無意識の「感じる」が入り込んでくるからです。とくに立場上の優劣関係がある場合、そこにそうなります。

## ユリノキ

モクレン科ユリノキ属の落葉高木、大気浄化能力Aの環境樹木です。別名は、チューリップノキ、ハンテンプクなど、花がチューリップ様、葉がTシャツ、半纏にみえます。北米原産、近年、街路樹や公園によくみられる、都会の木です。

**「思います」でなく「考えます」という**

論理に感情が入り込むのは、優位に立つ人が意見を自分の都合で組み立ててしまうからです。私ごと私見です。意見に「こうした私ごと」が入れば、その時点でもう中立の論理とはいえません。

反対意見がでると憤慨するといった単純な感情反応は、こうした経緯で噴出します。劣位にある人もそれに感応して、無意識に対立を回避しようとしてします。双方で、話し合いはなくなりません。

考えと、この思いや意見・感想などの錯綜は、どんな会社でも学校でも、地域社会でもミニミニでも、日常に起きていることです。ここでは論理でなく感情の支配が強くてしまいます。

ですから、なるべくしにくいときもあります。「そう思います」というのでなく、「こう考えます」ということにします。それだけで、こうした膠着を、だんだんと回避できます。

持続可能性マネジメント

**TBL**LLP

トリプルボトムラインLLP

「考え」はおおやけ(公共)のもの

考えと感じとを意識的につかいわけ、思い  
ということばをなるべくつかわないようにす  
ると、軌轢や膠着を回避できるだけでなく、  
考えの「おおやけ」ということに、意識が向  
き、「わたくし」とから距離をとるように  
なります。

「わたしの」つぎつめた考えは「こうです」と  
いうことは、「大多数がよいとするはずの」わ  
たしの考えは「こうです」となり、自然と私見  
を排除していくことになるからです。そして、  
それがまた、相手にも自然に伝染していき  
ます。

すくなくとも、論理がそのまま輪郭をもち、  
相手も、無意識に、感情でなく論理に焦点  
をあてようとするからです。そうした流れ  
は、だれにとつても僥倖です。

「理念」と「ビジョン」は違う

思う、でなく、考えるという視点から、理  
念ということばに焦点をあててみます。

理念は、理想やビジョン(幻想)と混同され  
ることがありますが、はっきり別のものです。

理念には、対立語がありません。理想やビ  
ジョン、空想や夢には、現実という反対語  
があります。

したがって理想、ビジョンは、現実から乖離  
し、逃避することとみられても仕方ありま  
せんが、理念はそういうものではありません。

「実現(リアライゼーション)」

理念とは、実現(リアライズ)するものです。  
対して、理想やビジョン、夢や空想は、かり  
に実現ということばをつかっても、実際は実  
現することより、そう想っている事実がある  
ことで、よしとしてしまいます。

「望ましい」という表現が、理想、ビジョンな  
どのことばの本質です。「実現不可能」の代  
名詞といていいいものです。理念はあくまで  
実現可能なものです。

これからを現実化する

実現とは「対象をこれから現実化する」と  
とで、いま現在の現実(また、を、そのまま再  
現することではありません。これからとは、  
未来のことです。

現実とは、「これまで」のモノゴトのことで、現  
実的とは、これまでのやり方を踏襲するこ  
とです。未来とは「これまで」とは別で、「こ  
れから」のモノゴトのことです。

未来は、「自ず(おのずから)やってくる」  
とではありません。「自(みずか)ら」つくって  
いくことです。自ずと自らも別のことばです。

特集 持続可能性リアライゼーションのつづき

ヴェーバーのいうように、動機は、感情に  
属するものですが、かならず一つの方程式  
をもっています。それは、「よりよき着地点  
が分かっている、人は動いていける」というシ  
ンブルな命題にほかなりません。使命感で  
す。

そしてその着地点を現実のイメージとして  
抱くことができるもの、それが理念のもう  
一つの側面です。

理念の再確認

具体的な理念は、たとえば「消費するエネ  
ルギーのすべてを、再生可能なエネルギーと  
する」というものです。その後には同様に  
「再生可能なマテリアルとする」ということ  
ばもつづきます。

「再生可能エネルギー社会」、「再生可能マ  
テリアル社会」、つまり「再生可能な(資源)  
社会」です。「持続可能性社会」です。

ちなみに、「低炭素社会」は、理念ではあり  
ません。「脱炭素社会」多くを原子力エネ  
ルギーに依存する」でもありません。それら  
は、方針の一つもしくは過程にすぎません。  
多くをソーラーに由来する再生可能エネル  
ギーに依拠する社会だけが、この場合の確  
かな理念といえるものです。



ユリノキの葉

\*企業の自立とは

企業が社会(当局・政府・行政、地域社会、市  
場、NPO・NGOなど)に、またその主体性法  
律・条令・地域慣習・商慣習などに制せられる  
のでなく、企業が社会をつくる、よき影響をあ  
たえて変革していく、という意志をもって事業  
を営んでいく姿勢のこと。きたるべき時代(つな  
がたい、TBL)のコンセプトです。

パラダイムの変革

そうした理念の実現は、いくつパラダイム  
の変革をもたらしますが、そのうち最大の  
枠組み変化は、再生可能エネルギーのもつ分  
散性(非集中性)です。

農業のように、農地の集約化の効率と、分  
散化の効率とがどこかのレベルで平衡するこ  
うセオリーが有効です。それは、副産物と  
して、組織体のエネルギーの自給自足という  
新しいパラダイムを生みます。

過去でないこと、過去を背負った現在でも  
ないこと、そうした前提のもとにある理念は、  
かならず未来のどこかに、実現すべきものと  
して佇立します。

持続可能性マネジメントが、未来を措置す  
るマネジメントである証左です。

組織体の理念

組織体にとって(どんな組織体であっても)  
理念とは、実現すべき最上位の価値です。  
そして、理念にもつづき、方針がブレイクダ  
ウンされます。

地球温暖化防止という世界共通の課題に  
対して、「二酸化炭素(90年比)25%削減」  
という宣言は、こうした方針です。

これに対する各界の反応は、二様です。  
様々な理由をあげて無理だとする反応と、  
反対に賛意を表して、計画の具体化をもと  
めようとする反応です。

足かせということからすると、無理とする  
のも分らないではありませんが、万人に均  
等な足かせが、文明を発展させていくこと  
もまた、歴史の事実です。

動機と理念

「25%削減宣言」は、この足かせを意識し、  
「いつかはしなければならぬこと」をためら  
って、後世により大きな禍根を残してはなら  
ない」という理由を付けくわえています。

足かせをクリアし、足かせがかえって動機と  
なることを期待するものですが、そのまま  
は、動機につながりません。

SAS2020(2008.06 策定)  
持続可能性評価規準(目次)

- 1 ガバナンス、出資者と経営者
- 1.1 組織の概要
- 1.2 理念
- 1.3 ガバナンス体制
- 1.4 ガバナンスコード
- 1.5 財務と業績
- 1.6 事業継続管理
- 1.7 行為規範(コンダクト・コード)
- 2 利用者、消費者、生活者
- 2.1 利用者の安全衛生
- 2.2 品質管理
- 2.3 利用者の抱負(ライフスタイル要請)
- 2.4 研究開発
- 3 就業者(従業員)
- 3.1 デイリーセント・ワーク
- 3.2 就業者の安全衛生
- 3.3 フレンドリー・フレンドリー
- 3.4 就業者の抱負(ワークスタイル要請)
- 3.5 就業者の職務評価
- 3.6 就業者の経営参画
- 4 地域社会
- 4.1 上下流の協力者、供給者(サプライヤー)
- 4.2 市場と業界
- 4.3 NPO・NGO・メディア
- 4.4 地域社会
- 4.5 世界と無償の行為(フリー・アクト)
- 5 地球環境
- 5.1 マテリアルバランスと環境管理
- 5.2 エネルギー
- 5.3 マテリアル(原材料)
- 5.4 水
- 5.5 温室効果ガス
- 5.6 汚染物質・有害物質
- 5.7 廃棄物
- 5.8 生物多様性